資料_景－３

議事　３
資料－２

宇徳本社ビル照明計画

◆計画概要

- 計画地　：神奈川県横浜市中区海岸通 4 丁目 24
- 敷地面積：1509.647 ㎡
- 用途地域：商業地域
- 地域地区：臨港地区 (無分区)
- 建築面積：1229.53 ㎡
- 延床面積：8844.57 ㎡
- 階数　　：8 階
- 用途　　：事務所
- 建物高さ：39.8m

本計画は港湾関係企業の本社ビル計画である。「関内地区」と「みなとみらい 21 地区」の結節点として今後の活性化が期待される「海岸通り地区」として、計画に合わせ地区計画を策定している。

地区内には市民の憩いの場となる地区施設を計画し、水際への賑わいの引込み、海側から見た景観への配慮等が求められている。特に、本計画の B 地区は「海岸通り地区」の入口として、馬車道駅から赤レンガ倉庫への人の流れを呼び込むゲートとして位置づけられている。

外観デザインは馬車道エリアの景観との連続性に配慮し、低層部はテラコッタタイル、中層部は前面に広がる運河の水面に呼応する波型のカーテンウォールによるデザインとし、海側からは透明感を馬車道側からは重厚感を感じる計画とした。

◆景観計画上の位置づけ

横浜市景観計画において本計画地は敷地西側が「歴史的界隈形成エリア」に含まれており、夜間照明 (ライトアップ) については、周囲の歴史的建造物を阻害しないように建物北側 (運河側) にライトアップを行うことで、海岸通り地区の夜間景観の創出に寄与できるものと考える。

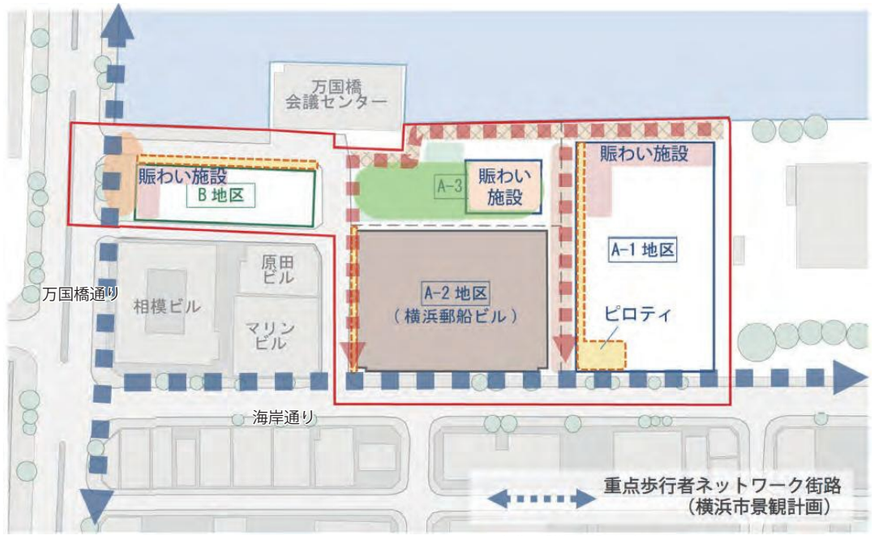
(4) 特定照明に関する良好な景観の形成のための制限

ア　計画図１の７に示す「歴史的界隈形成エリア」内においては、歴史的建造物以外の建築物又は工作物は、投光器等で照らしてはならない。

イ　計画図１の３に示す日本郵船ビル又は赤レンガ倉庫を眺望対象とする「見通し景観形成街路」に面する建築物及び工作物は、投光器等で照らしてはならない。

◆海岸通り地区のまちづくり

「海岸通り地区計画」では重点歩行者ネットワーク街路である万国橋通り、海岸通りから水際に人々を引き込み回遊動線を形成することを目指している。将来的に海側の道路等を水際線プロムナードとして整備する構想に基づき、建物北側とそれに接続する部分に賑わい施設を配置している。そのため、夜間においても、新港地区や運河から海岸通り地区を見た際に水際に連続した景観を創出することで、周辺地区も含めた賑わいと回遊性の創出が期待される。

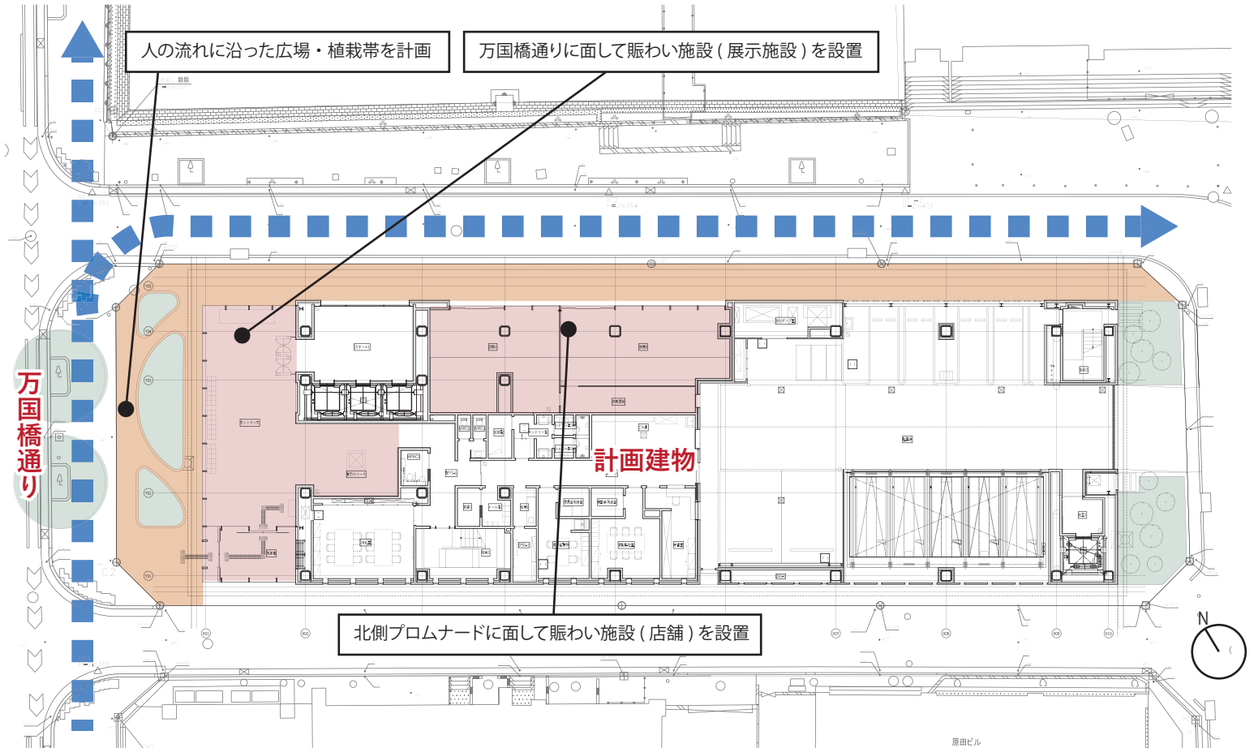


出典：【様式 5】都市再生の貢献に関する説明書

◆建築計画との関係

「海岸通り地区地区計画」にて期待される万国橋通りからの賑わいの引込みのために、外壁をセットバックし敷地西側と北側に広場状空地を確保、そこに面するように賑わい施設を配置している。

賑わい施設には外部からも鑑賞できる展示物や店舗等を配置することで、馬車道駅から赤レンガ倉庫へ続く現在の人の流れを地区内に引込むことを意図している。



宇徳本社ビル照明計画

◆照明コンセプト - 景観の調和と人の流れの誘導を図る外装照明

本計画では「ロウソクの炎」のようなほんのりとした温かみのある外装照明により、街路に設置されたガス灯の暖かな光と呼応する照明デザインとし、周辺の夜間景観を尊重しながら、「北仲エリア」から「海岸通り地区」に続く東西軸の水際の景観を演出し、歩きたくなる空間として水際線へ人の流れを促す効果を期待する。

具体的な照明方法についてはモックアップを作成し検証した。設計時はレンガ色の外装パネル全体をライトアップする方針としていたが、光量、幅、長さを絞り「ロウソクの炎」のような照明デザインとなるよう調整を行った。外装照明の設置は北側ファサードとするが、建物外装の波型形状によりライトアップが視認できるのは、敷地東側・北側から見たときとなる。

◆夜間照明の効果

①旧万国橋ビルと調和した夜間景観の創出

現在の海岸通り地区は集合住宅や事務所ビルが多いエリアであり、4000 ～ 5000K 程度の白色の光が目立つ。室内においては 3000K 程度の建築インテリア照明を施すことで、歴史的界隈形成エリアらしい落ち着いた夜間景観の創出に寄与することを目指す。

加えて、万国橋通りを挟んで反対側に建つ旧万国橋ビル（復元）からは、波型の外壁形状により直接照明光源が見えないように配慮した。一方で、敷地北側に整備される水際線プロムナードからはライトアップされた旧万国橋ビルが見える。低層部の照明および北側ファサードの外装照明により、プロムナードの夜間景観として旧万国橋ビル（復元）との調和を図る。レンガ調の外壁を照らした万国橋ビルに対して、レンガ色パネルをほんのり照らすことで、景観的な調和を目指す。

②人の流れを誘導する外装照明

新港地区および運河対岸から見た際に、北仲エリアとは異なり、集合住宅や事務所ビルが中心である「海岸通り地区」は夜間において暗い印象を受ける。北側ファサードの外装照明により、対岸からでも賑わいを感じることができるよう演出する。

それにより、対岸にある新港地区から海岸通り地区の水際線へ人の流れを促していくとともに、低層部においてはエントランスの残置照明、外壁レンガタイル壁のライトアップを行うことで歩行者の安全性にも配慮する。

設計当初の外観照明イメージ

ロウソクの炎のイメージ

旧万国橋ビルに配慮した夜間景観を創出する。

室内に置いても 3000K 以上の暖かみのある照明を施すことで、落ち着いた夜間景観を創出する。

復元された旧万国橋ビルのファサード。
内部からは商業施設の光が漏れている。

北側ファサードに照明を設置することで水際線への人の流れを促す